

## 小川弘貫博士 略年譜

明治三十八年（一九〇五）十二月二十六日 佐賀県藤津郡鹿島村大字常広二十二番地 曹洞宗の法

頼山瑞田寺住職小川道悟 同シカの長男として生誕

明治四十三年（一九一〇）十二月三十日 六歳 母シカ逝去（二十五歳）

明治四十五年（一九一二）四月 八歳 北鹿島村尋常小学校入学

大正七年（一九一八）三月 十四歳 北鹿島村尋常小学校卒業

大正九年（一九二〇）四月十日 十六歳 佐賀県立鹿島中学校入学

大正九年（一九二〇）五月十日 十六歳 父の道悟に就て得度 この冬 佐賀県杵島郡須古村陽興

寺住職高岸為範常恒会に入る

大正十四年（一九二五）三月十日 二十一歳 鹿島中学校全科卒業

大正十四年（一九二五）四月二十日 二十一歳 駒沢大学予科二年入学

昭和二年（一九二七）三月 二十三歳 駒沢大学予科終了

昭和二年（一九二七）四月 二十三歳 駒沢大学文学部仏教科入学

昭和五年（一九三〇）三月 二十六歳 駒沢大学文学部仏教科卒業

昭和五年（一九三〇）四月 二十六歳 大谷大学仏教科研究科に曹洞宗研究生として内地留学

昭和六年（一九三一） 二十七歳 三月より一年間幹部候補生見習士官として近衛歩兵第二聯隊に入隊

昭和九年（一九三四）三月 三十歳 同十二年春まで駒沢高等女学校教諭に就任  
昭和九年（一九三四）秋 三十歳 北海道函館市の四柳テルと結婚

昭和十二年（一九三七）四月 三十三歳 駒沢大学講師就任 曹洞宗研究員就任

昭和十三年（一九三八） 三十四歳 同十六年秋まで南方方面さい司令部付として中国の広東省へ出征

昭和十七年（一九四二）春 三十八歳 駒沢高等女学校講師に復す

昭和十八年（一九四三） 三十九歳 娘の掬子死す（二歳）

昭和二十年（一九四五）六月二十八日 四十一歳 テル夫人逝去（三十七歳）

昭和二十二年（一九四七） 四十三歳 埼玉県松伏町の目黒とみ子と結婚

昭和二十四年（一九四九）四月 四十五歳 駒沢大学助教授就任

昭和二十五年（一九五〇）五月 四十六歳 駒沢学園女子中学高等学校教頭就任

昭和二十九年（一九五四）九月 五十歳 駒沢大学教授就任

昭和二十九年（一九五四）十二月二十七日 五十歳 父の道悟 埼玉県杉戸町の正明寺で示寂

(八十一歳)

昭和三十二年(一九五七)四月 五十三歳 学校法人・駒沢学園理事長並びに園長に就任

昭和三十六年(一九六一)三月 五十七歳 「如来蔵説の研究」により駒沢大学より文学博士の学位を取得

昭和四十年(一九六五)四月 六十一歳 駒沢女子短期大学を創設してその学長に就任

昭和四十九年(一九七四)四月十日 満六十八歳 駒沢女子短期大学入学式において大講堂壇上で学長挨拶をおわり その直後 立亡を示す ときに午前十時四十七分 遺偈「生死去来 六十八年 自在自兮 鳥飛如鳥」

四月十一日小川邸において密葬 四月二十日駒沢学園葬 十月十二日蓮光寺葬

曹洞宗大教師 日本仏教学会理事 日本印度学仏教学会理事